

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホームちやたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町字宮城1番793		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 6 日	評価結果市町村受理日	令和5年 4 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4792400022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4792400022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度同様にコロナウイルス流行の中で外出支援や地域活動への参加が行えず、事業所外との交流がない為、閉鎖的になっているが、日々、行事やレクリエーションなどを行いながら利用者が楽しんで頂けるように力を入れています。  
現在、利用者のADLの低下により体調管理が難しい利用者や、転倒するリスクがある利用者が多いため、個々の体調管理や見守りに重点をおいてケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年が経過した当事業所は、商業施設や公共施設が隣接する住宅街にあり、1階が同一法人の通所介護事業所で2階に当事業所が併設されている複合施設となっており、虐待防止委員会や災害時の避難訓練等、一体となって取り組んでいる。事業所は、理念の「人財育成」に力を入れ、年間研修計画の下、各種研修を実施するとともに外部評価に際しては、職員全員で自己評価を行う等、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。就業規則が整備され、各種手当やハラスメント防止策等が規定され、年次有給休暇等の各種休暇や勤務配置、法人内の異動等、職員の意向が尊重され働きやすい就業環境の整備に努めている。コロナ禍で家族や地域との交流や外出等が制限される中、年間行事計画を作成し、感染状況に配慮しながら、季節の花見や鯉のぼり見物等のドライブ等、外出支援に努めている。急変や事故発生時の備えとして、対応マニュアルや連絡体制を整備し、緊急対応等の職員研修を実施するとともに事故・ヒヤリハット発生時は当日に再発防止の検討会議を開催し職員に周知している。また年間の事故・ヒヤリハットの集計・分析を行い、利用者の安心、安全な暮らしに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を詰所内に掲示し、意識し実践につなげられるように努めている。	理念は、「人財育成・顧客満足・地域貢献」の三項目から成り、職員が確認し、意識できるよう職員室やリビングに掲示している。職員採用時は、管理者が理念を説明し周知している。事業所は、理念の「人財育成」に向けて職員研修の充実を図り、外部評価における自己評価を全職員で行う等、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行により、交流などは行えない状況である。	地域の区長や民生委員が運営推進会議委員となり、協力を得ている。コロナ禍前は、町の福祉祭りや運動会に参加し、定期的に踊りや紙芝居、ドッグセラピー等のボランティアを受け入れ地域の人と交流していたが、現在は中断している。時折、古着等の差し入れで民生委員が立ち寄る他、フードバンク活動団体の訪問時は、食料提供に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行の為、認知症サポーター養成講座などは行えていない状況であるが、行える状況になれば行っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、コロナウイルスの影響で行えなかったため、十分とはいえない。	運営推進会議は、利用者や家族、地域包括支援センター職員や知見者、地域代表者で構成し年6回開催しているが、コロナ禍により利用者の参加を中止している。2か月毎に利用者や活動状況、事故等の状況をまとめた報告書と運営推進会議録を各委員に配布し、直接、意見交換を行う書面会議を開催している。外部評価結果も各委員に配布し、議事録とともに公表している。議事録の意見交換は発言者の明示に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者にて町役場の職員と連携し、相談に来た方などの対応を行っている。また町内のグループホーム連絡会に参加し地域の情報共有、活動のサポートを行っている。	行政には、各種申請やPCR検査等の報告の他、地域の入居希望者の情報交換や相談等で窓口を訪問した時に事業所の状況を伝えている。2か月毎に開催の町グループホーム連絡会に行政担当者も参加し情報交換を行っている。行政からの災害時等、地域高齢者の緊急避難受け入れ依頼があり、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束についての職員研修を定期的に行っている。身体拘束委員会を中心に定期的に会議を開催しています。 又、運営推進会議内で委員会会議を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、定期的に「身体拘束」や「不適切なケア」等について職員研修を実施している。運営推進会議委員で構成する身体的拘束等の適正化検討委員会、書面会議となっている。委員会では、「転倒防止策の感知センサーの対応」等が検討され、議事録を作成している。議事録は、職員会議等で周知している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うなど虐待防止に努めている。	虐待防止指針を整備し、「虐待防止や虐待の芽チェックリスト」等の職員研修を実施している。複合施設内の事業所で構成する虐待防止委員会が設置され、虐待の有無等を確認している。毎年、職員の疲労感等に配慮し、ストレスチェックを実施している。利用者の身体の小さな変化にも注意を払い、発見時は、全職員で要因を検討する等、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への面談、説明を事前に行い、不安解消に努め理解を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日々の中で要望を伺えるように努めている。 又、家族が来所された際に、話を伺い要望等を聞いています。	利用者からの意見や要望等は、日々の関わりの中で「家族に会いたい」や「食べたいもの」等を聞き、面会の支援や利用者の希望に添って、寿司やチキン、おやつ等を楽しむ機会を設けている。家族からは、運営推進会議や面会、電話等で聞き、「コロナ禍で面会制限が続き、入居の親が心配」との声に、感染対策の下、短時間の面会が対応されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や、毎日のミーティングで話し合える環境である。	職員の意見は、毎月開催の職員会議や日々の申し送り等で聞く他、業務中でも随時聞いている。職員から「早朝、寝起きのオムツ交換を覚醒時への変更」や「毎月開催の職員会議を多くの職員が参加しやすいように現行の19時30分から早番勤務終了後の15時30分への変更」等の提案があり、見直される等、運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に休みの希望などを聞き、反映させるように努めている。 勤務の夜勤について、要望があれば2交代、3交代を選択できるように努めている。 一方、職員より、やりがいや向上心が持ていないとの意見が見られた。	就業規則を整備し、給与や休暇等の労働条件を規定している。年次有給休暇等の取得や勤務シフト、異動等は、職員の希望に合わせて対応している。健康診断は、日勤者は年1回、夜勤を行う職員は年2回実施している。ハラスメント防止については、就業規則に位置づけ、指針も作成しているが、「妊娠、出産、育児、介護休業等へのハラスメント」の記載や職員への周知、啓発への取り組みが確認できなかった。	ハラスメント防止の指針や就業規則におけるハラスメントの分類に、「妊娠、出産、育児、介護休業等へのハラスメント」の追記とハラスメント防止についての周知、啓発に向けて職員研修等の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員全体に向けての勉強会を実施しているが、個別のスキルアップの研修などは十分に行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者にて連絡会などに参加し、情報交換を行っている。 感染対策で他事業所との交流は行えていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談し要望などを聞き出すように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族と面談し、困っていること等を聞き出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に必要な支援を見極めるように努めている。 他のサービスを利用していない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として対応したい気持ちはあるが、一部の利用者の対応に追われ、利用者個別の対応に偏りが生じていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時に本人の普段の様子を伝え、問題があれば家族と共に考えケアに生かせるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行に伴い外部との接触がほとんど持てない状況です。 コロナウイルス感染症が収まれば積極的に行っていきたい。	馴染みの人や場については、本人や家族等から生活歴や職歴等を聞いて把握している。コロナ禍の前は、知人等の訪問があり、馴染みの場所へ出かけていたが、中断している。現在は、コロナの発生状況に配慮しながら少人数毎に出身地域へのドライブを支援している。利用者からの「仕事で赴任した島が見たい」や「地元に帰りたい」との訴えには、ユーチューブやグーグルマップを活用し情報提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の雑談やレク活動の中で、利用者ひとりひとりがコミュニケーションの和になじめるように声掛けするなど配慮している。 しかし、利用者のADLに応じて対応に偏りがあり、時には利用者が孤立する時間帯が来てしまう事がある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談にて思いや以降の把握に努めている。 又、日々のケアの中で本人の思い、意向をくみ取るように努めている。	利用者の思いや意向は、アセスメントや日頃の会話を通して把握している。利用者からの「家族と話したい」や「食事への希望」等には、家族への電話や希望の食事を行事食に反映させる等、対応している。時折、「リハビリがしたい」との声には、職員が時間を調整し、対応している。発語等、把握が困難な場合は、家族に聞く他、本人の表情や行動等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談や、ご家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で毎日行う申し送りを、密に行い日々の心身の状態の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状況の変化があれば、家族と話し合い、主治医などの意見を伺い計画に反映できるように努めている。	担当者会議には、利用者や家族、計画作成担当者や介護職員等が参加し、主治医からの意見も踏まえて介護計画を作成している。介護計画は、長期目標を1年、短期目標を半年とし、モニタリングを半年毎に実施している。定期的見直しは、半年毎に行い、ケガや病気等、身体状況の変化時は随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の活動内容を記録し、変わったことなどがあれば申し送りを通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない時の病院への送迎を行える範囲で行えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ等の影響で地域資源と関わるのが難しい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、元々の主治医に継続して見てもらうようお願いしている。 必要があれば往診対応が出来るかかりつけ医を紹介している。	馴染みのかかりつけ医を継続している利用者は5名で、眼科や皮膚科等の他科受診も含め家族対応を基本とし、必要時は職員が同行している。受診結果や薬の変更等については家族から口頭で報告を受け、職員は申し送りノートで共有している。3名の方は、家族の希望で協力医に変更し、訪問診療を利用している。利用者は受診時に健康診断も受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は所属していない。複合施設内の他事業所に看護師が在籍している為、緊急時などは協力を得られる。日頃の利用者の情報共有は行っていない。 かかりつけの病院へは必要に応じて連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医療ケースワーカーと情報交換に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と必要に応じ事業所で終末期を迎える事が出来る事を説明している。	重度化や終末期に向けた方針については、利用者の状態変化に応じて指針をもとに家族等に説明し、同意書を取っている。利用者本人や家族の意向を直接確認し、看取りの希望に対応できる職員体制を構築している。看取りの対象者が出た場合は、主治医や訪問看護師等との連携を密にし、ケース会議で対応方針について話し合い、職員も研修を行っている。令和元年に看取りを行った際は、医師も参加してグリーフケアを実施している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はまだ緊急時の対応方法の勉強会を行っていない。	急変や事故発生時に備えて、職員は応急手当等について学習し、マニュアルや連絡網等も掲示して周知を図っている。新入職員は全職員で指導し、夜勤時の連絡体制も確認している。事故発生時は当日に再発防止の検討会議を開き、対応策については申し送りノートに事故報告書と会議録を綴り、共有している。毎週1回、ヒヤリハット等を話し合う機会を持ち、意識づけをしている。年間の事故・ヒヤリハットの集計分析を行い、研修で活用し、再発防止に努めるとともにマニュアルの見直しも行っている。損害賠償保険に加入している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	定期的に避難訓練を行っている。しかし、地域との協力体制は整っていない。 感染症の予防、蔓延防止のための指針を整備している所です。感染症等の定期的な勉強会を行っている	火災や自然災害発生時に備えて、年に2回昼夜想定での避難訓練を実施している。各種災害対策マニュアルを整備し、防災設備点検も定期的実施し、訓練に向け職員は学習会を行っている。水や米、缶詰等の備蓄を利用者と職員の7日分用意し、備蓄リストも作成してほぼ毎日点検している。業務継続計画の作成に取り組み、感染症の予防、及び蔓延防止のための指針も整備中である。感染症に関する研修を定期的実施し、対策に努めている。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限りプライバシーを損ねないように配慮し対応に当たっている。	日々、利用者1人ひとりに「どうしたいか」を聞くとともに、「ベッドの柵をしなくて」等のやってほしくないことも確認し対応している。利用者の能力や希望に応じて、排泄や入浴時は見守りや必要な支援を行い、プライバシーの確保や羞恥心等に配慮している。職員は「倫理規定・法令遵守について」の資料で学んだり、研修会で「虐待の芽チェックリスト」について学習する等共通理解を図り、ケアに取り組んでいる。個人情報保護方針や利用目的を整備し、契約時に同意書を得ている。方針等は公表している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望に添えるように、コミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行える範囲で個人のペースに合わせたケアを行うことが出来ている。 本人の行いたい活動を優先するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室を利用していただいている。 整容の日を設け爪切りやムダ毛の処理を行う。時にはマニキュアを塗ることもある。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りなどを活動に取り入れており、出来立ての食べ物を食べられるように努めている。又、食事を楽しんでいただけるようにクリスマス等の行事の際、テーマに合った内容の食事作りを行っている。 感染症対策の為、食事の準備や片付けなどは職員で行っている。	食事は、昼・夕食のご飯と汁物は事業所で作っている。朝食と夕食(副菜)は配食を利用し、昼食(副菜)は法人の厨房で調理したものを温めて盛り付けをし、提供している。菜園で収穫した人参やトマト、ネギ等をおやつや天ぷらやバイキング等に活用している。利用者1人ひとりに食べたいものを聞き、寿司やフライドチキン、行事に合わせた特別食等を提供し、家族からもテレビ等好きなものの差し入れがある。月1回の厨房会議に管理者が参加し、利用者の嗜好や希望を伝え、反映した食事提供に努めている。職員は「食事介助とは」の勉強会を実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックを行い職員が情報を共有し積極的に支援出来ている。 食事量が少ない方については、主治医へ報告し補助食品等を処方してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、必要に応じたケアを行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせたアプローチを心がけている。	トイレでの排泄を支援する方針とし、本人の訴えや排泄チェック表で利用者1人ひとりの排泄パターンを把握して支援している。早朝の排泄介助は、利用者が覚醒してからが安全な支援につながるとの提案があり、オムツ交換やトイレ案内のタイミングを工夫している。失敗の多い時間帯を把握し、他の利用者に気づかれないよう配慮している。立位が保てるようトイレまでの歩行を促したり、退院後の利用者には衣服の上げ下げができるよう説明をする等、利用者自身が排泄の自立に取り組めるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況に合わせながら、主治医相談のもと下剤などの調整を行っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日や時間帯は設定されている。入浴に対し本人の意思決定を出来る限り尊重している。	入浴は日曜日を除く6日間対応し、週に2回以上、午前中を基本として支援している。利用者の希望をまず確認し、当日の体調によって時間帯を変えたり、曜日を調整して支援する等工夫している。自分でできることはやらせよう等プライバシーに配慮している。愛用のシャンプーやローションを使う利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個別の状況により対応している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	薬のチェック体制や、マニュアル を整えている。又、服薬の変更や 追加処方がある際は、申し送り を通して情報の共有に努めている。	職員は利用者の服薬内容や服薬 状況を理解し、全職員で各シフト 毎の服薬支援の内容を周知してい る。薬の変更や追加に関しては 申し送り共有し、薬剤の管理に ついては担当制にしている。服 薬支援マニュアルに具体的な手 順を明記し、配薬は複数の職員 で行って他の職員が確認し、与 薬の前には日付けや時間帯を声 出して確認し、利用者にも氏名 の呼びかけをして確認する等支 援方法を工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	個別に楽しめる時間や、職員と 利用者同士が楽しめる時間を持 つことを心掛けているが、落ち 着かない利用者への対応に追 われ個々によっては十分に対応 できていないと感じることがあ る。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している	職員が対応できる時間であれば 外出などの要望に応えられるよ うに努めている。コロナ流行の 状況により、外出の制限をかけ ることがある為、十分に行えて いない。	利用者は車椅子の方も含め、全 員ベランダでの日光浴や玄関前 ・駐車場での外気浴を行っている 。コロナ禍のため外出を制限し ている期間は、ベランダでの花 壇の観賞、菜園の野菜の手入れ や収穫等を支援している。行事 計画に外出支援を組み入れ、職 員ができる方法を工夫し、時期 によっては利用者の出身地域や 近隣の海、ひまわり畑への少人 数でのドライブを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている	管理できる方は自己管理して いただくが、現在は自己管理 できる方がいない。又、個人の 買い物などの支援も行えなかつ た。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて家族と連絡が取れるように支援している。 携帯電話を持っている利用者もおり要望があれば自由に電話をしてもらっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるように取り組んでいる。室内では、各々の好きな場所で自由に過ごすことができるように心がけている。 常時換気している為、温度変化に気を付け、冷暖房を使用している。	共用空間は季節感が感じられるよう雰囲気づくりに努め、ハロウィンやクリスマス、正月等の年中行事に合わせた飾りつけを行い、干支の虎の絵や生け花等も飾っている。温湿度の管理はエアコンで調整し、快適に過ごせるよう配慮している。感染対策のため、テーブルにパーテーションを設置している。洗剤等の危険物は、高い棚に収納している。事業所は2階に位置しており、ベランダから隣の運動公園で行われるスポーツ大会や保育園児の遠足風景等を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を制限せずに自由に居室や、ホールを使用できるように心がけているが、事故を防ぐための見守りが必要な利用者は制限されることがある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに、使い慣れたものがあれば、自由に持ち込んでもらえるように対応している。 家族との面会が行えていないこともあり、居室の見やすい所に家族の写真や手紙を飾るなどを行っている。	各居室には、ベッドやエアコン、タンス、加湿器、空気清浄機、温湿度計、ナースコール等を設置している。各居室にテレビも設置し、自由に見られるようにしている。利用者は使い慣れた布団や椅子等を持ち込み、写真や父の日・母の日のメッセージを飾る等、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて環境整備に取り組んでいる。		